

# やっぱり許してはならないTPP！！

## — こんなにある問題点、しかも秘密交渉 —

### ●消費者は大変！食料の安定供給も安全も危うく！

政府の控えめな試算でも、食料自給率は現在の39%から27%まで下がります。世界で食料危機が進行しているとき、食料を輸入に依存するのは、安定供給を危うくするだけでなく、食料不足で苦しんでいる人々から食料を奪うことになるのです。



また、食品添加物や残留農薬基準の緩和や、遺伝子組み換え食品の表示廃止など、食の安全も心配です。

### ●労働者にも、影響は甚大

研究者グループの試算では、TPPに参加すると、農林漁業の衰退で関連労働者190万人が失業。公共事業に外国企業が参入しやすくなり、仕事や雇用も心配です。

### ●いのちの沙汰も金次第に！？

日本では、医療は非営利が原則。しかしアメリカは医療にも市場原理の導入を主張し、株式会社が病院経営をしたり、保険外の自由診療の拡大を求めています。新しい先進医療技術に特許を認めることや医薬品特許の延長も要求しています。これでは、日本の優れた国民皆保険が崩壊しかねません。病気になっても病院に行くことができなくなります。



### ●エ！かんぽも共済も無くなるの？

アメリカの主張は、かんぽや生協や農協の共済は、民間の生損保より優遇されているのでけしからんというもの。廃止を要求されかねません。

### ●投資家が政府を訴える！SD条項も危険！

海外進出した企業や投資家が、その国の政策によって期待した利益が得られなかったとき、その損害を賠償請求できるという制度です。

ドイツの原発廃止政策に対し、スウェーデンの会社が、もうけが失われるとドイツ政府を訴えるという事例もあります。

その国の法律や政策が変更を迫られ、主権さえ危うくなります。

### 「秘密保持契約がある」と秘密交渉

政府は、7月23日、マレーシアでTPP交渉に入るとき、秘密保持契約にサイン。秘密交渉を約束しました。政府はこれを理由に、国民にも国会にも情報を開示しないまま交渉を続けています。

### アメリカの要求は丸呑みして、二国間秘密協議も開始

日本がTPPに参加するために行った日米事前協議で、日本政府が丸呑みしたアメリカの要求の一つが、郵政のかんぽにがん保険など新商品を認めないこと。するとその後、アフラックのがん保険を全国の郵便局で売ることになったのです。

日本の市場をアメリカの大企業に明け渡すことがTPPのねらいであることを物語っています。

さらに、アメリカの企業の経済活動にとって障害だという非関税障壁の撤廃のために、TPP交渉と並行して日米協議を始めたのです。こちら秘密です。

食品や栄養機能食品の表示や安全基準、医療機器の認可など、その多くは、国民のいのちや暮らし、中小企業の営業を守るために作り上げてきたさまざまな制度です。



よびかけ

国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会（全国食健連）

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館内 center@shokkenren.jp

電話 03-3372-6112 FAX 03-3370-8329